

防災リスクマネジメント Web「恐るべし名古屋！ 防災でも元気印・その秘訣を紐解く」

第1回 恐るべし名古屋の仕掛け人たち

名古屋は、21世紀を迎えるまでは、防災面では劣等生だった。それが、最近では、防災でも、「名古屋は元気」だと聞く。「名古屋が元気」のきっかけは、2001年の東海地震の震源域の見直しだと思われている。だが、その裏で、着々と準備をして、機が熟すのを待ち、絶好のタイミングで、仕掛けた人たちがいる。このシリーズでは、名古屋の防災の仕掛け人たちに登場いただき、最初の一步をどのように踏み出したのか、その秘訣を聞く。初回は、これからの予告編である。

まず、私、福和は、ゼネコン出身のわか大学人であり、生粋の名古屋っ子である。大学発の仕掛け（協働の仕組み作り）作り、ヒト・コト・モノ作り（人の育成と啓発、基礎研究、システム・道具作り）を実践してきた。特に、人の協働に腐心している。時事通信の中川さんにコーディネータ役を命じられた。毎回、茶々を入れながらおつき合いする予定である。

最初に登場頂くのは、メディアの方々である。社会に対するメディアの力は大きい。どのようにメディアが動いたのか、そして、メディアと研究者の協働がどのように始まったのか、北大の隈本さん（元NHK）、中京TVの武居さんから紹介して貰う。そして、防災オタクのメディア人、大牟田さん（MBS）、山口さん（NHK）、大島さん（東京新聞）、添田さん（朝日新聞）、入江さん（NHK）にコメント頂く。

次に、防災カレッジを仕掛けた松田さん（愛知県文化学事課）、親子防災教室を仕掛けた川村さん（同教育委員会）、防災まち作りを仕掛けた山川さん（同建設部）に登場頂く。水上さん（三重県）、岡嶋さん（JR東海、元名古屋市）、伊藤さん（豊橋市）は行政の立場から、近藤さん（布土小学校）、杓名さん（花の木小学校）は教員の立場から立ち上げの秘訣を披露いただく。町の建築士も登場するかも知れない。

企業からは、企業防災の優等生の東邦ガス・中村さんに防災プロジェクト開始までの苦労話を、トヨタの鈴木さんからトヨタ関連企業のボランティア活動を牽引する災害Vネット開設までの経緯を伺う。番外も有るかも知れない

大学からは、大学生協を動かした加藤さん（名大生協）、学生サークルを動かした倉田君（名大福和研）、技術者や住民を巻き込んだ飛田さん（名大災害対策室）、大学の災害対策を主導した鈴木さん（名大災害対策室）に登場頂く。三重大の川口さんは、大学人の地域防災への熱き思いを語ってくれると思う。

そして、地域防災の最強の担い手、防災ボランティアを代表して栗田さん（レスキューストックヤード）からNPO設立時の裏話を披露頂き、元気な仲間たち、三重の山本さん、西尾の牧野さん、安城の天野さん、そしてあいち防災リーダーの太田さんから、楽しく苦労話をして頂く。

独りよがりになるかもしれないが、役に立つこともあると思う。しばらく、地域防災の仕掛け人たちの知恵の広場に、おつき合い頂きたい。

参考資料

<http://www.sharaku.nuac.nagoya-u.ac.jp/~fukuwa/paper-pdf/0409tiiki.pdf>

（福和伸夫，飛田潤，鈴木康弘：中京圏における地震防災力向上のための大学研究者による実践研究，地域安全学会論文集，No.6，pp.223-232，2004.11）